

第6回横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会 議事録

日 時：平成29年1月27日（金）午後1時30分

場 所：横芝光町町民会館 大ホール

事務局：産業振興課

コンサルタント会社：(株)オオバ

外部アドバイザー：(株)ちばぎん総合研究所

1. 開会

欠席（土屋歩委員・川島富士子委員）報告

2. 委員長あいさつ

委員長：

基本計画検討委員会として我々は5月17日に町長から委員委嘱を受けました。本日1月27日、6回目の委員会は基本計画（案）をご審議いただき答申という形で提出します。今回まとめにあたり、前回の審議を行った後、正副委員長、事務局、株式会社オオバとの打ち合わせを行い、委員長・副委員長名で第6回委員会の開催における事前検討事項ということで5項目のアンケートを皆様方に配付しました。そのアンケート結果をもとに、後程、アドバイザーから見解を述べていただきますが、私たちは5月に産直交流施設基本構想を受け、前向きに検討、計画をしてほしいという基本計画策定に対する依頼を受けました。そこで我々の目指すところはマルかバツかの答えではなく、これを如何に横芝光町の魅力ある拠点として活かすかについて意見をまとめるために、今回5つのアンケート項目をお示しさせていただきました。「レストランとキッズルームの配置変更」、「体験ゾーンの拡充」、「憩いの広場の改修」、「道の駅への登録」、「生徒の通学路の安全対策」という項目をあげております。その中で中学校PTAのご意見もございしますが、こちらについては私のところにも意見があり、「子供たちの安全はどうであろうか」、また、「子供たちに問題が起きる悪の温床にならないか」というような懸念もあります。これについて私からも、未来ある子供たちのための町の交流となる魅力ある施設計画として理解していただけるよう説明しております。そして、野菜や特産品を売る施設だけではなく、町の交流拠点施設をつくることを目的に分かり易い基本計画（案）の答申書を提出したいと考えております。今までにない、この地域にない分棟型の施設として、エコツーリズムの推進であるとか、インバウンド観光の推進であるとか、そういった面も踏まえて、単

なる産直施設ではない施設ということで、「産直交流ツーリズムステーション」として、今までの道の駅とは違う魅力ある施設にするという計画を提案いたします。本日、町長は公務で千葉の方へ行っておりますが、戻られたら最後の挨拶をいただく予定です。我々の任務としては本日をもって終了となります。皆様方、本当にありがとうございました。最終委員会となりますが、最後までご協力をお願いしたいと思います。それでは、アドバイザーにまとめをお願いします。私からは以上です。

アドバイザー：

今までの第6回までに至る委員会に参加させていただき、皆様の活発なご意見等を伺いながら、前回は現地視察ということで様々なことを一緒にさせていただき、私もアドバイザーとして拝命しておりますが、色々と勉強させていただきながら委員会を進められて非常に良かったと実感しております。委員長からご指名いただきましたのでお話をさせていただきます。主に私の方でお話させていただくことは事前検討事項についてです。皆様のもとにも「事前に5つの項目について意見をください」という話があったとおり、それについて私も意見を提出させていただきました。皆様と重複する部分や異なる意見も多々あるかと思いますが、代表として話してほしいというご意向を委員長からいただきましたので、私が提出した意見をもとにお話をさせていただきます。第6回委員会資料として送られた参考2の資料に「見解の整理」があります。事前に目を通させていただいた限りでは、似た意見も多いように感じておりますし、こういうのも良いと改めて思いました。それを含めて話をさせていただきます。最初に1の「レストランとキッズルームの配置変更」について、こちらの変更については、前回の会議で、また現地も見た中で皆様からのご意見が反映されたのではないかと考えております。キッズルームと遊具が隣接していますし、また、レストランについても、いわゆるのっぺりとした横長ではなく、少しL字のような形にして、また屋外デッキも想定されているので、眺望が重視されるレストランとしては良い形になっています。キッズルーム内にトイレもあるので、遊具ゾーンで遊んでいる子ども達が遠くのトイレまで行かなくても済みます。全ての子どもがキッズルーム内のトイレを使うとは思いませんが、そういう配慮もなされていると感じます。次に2の「体験ゾーンの拡充」に関しまして、まず体験ゾーン候補地を設けることは賛成です。ただ規制的な部分で、坂田池で幾らでも好きなように体験やスポーツ的なことをしても良いのかという課題を一つひとつ乗り越えた中で、体験ゾーンというものを作っていくということは良いと思います。また、頂いた資

料でカヌーはハードなスポーツというイメージ写真のように思えるので、例えば井の頭公園の手漕ぎボートやスワンボートのように少しのんびりとほのぼのとした公園を目指していくのも良いのではないかと思います。それもまた住民にも喜ばれますし、ふらっと人が寄ってみようと思える池の施設、体験ゾーンの方がよりこの施設の目指すところに近いのではないかと感じます。3の「憩いの広場の改修」に関しては、現状のままでは使い勝手が非常に悪いと考えていて、ここの改修は個人的には不可欠と見ています。やはり、色々な地域の方々、住民、町外の方、文化活動団体ですとか、もちろん子どもや高齢者の方もそうですし、色々な集まり、団体、サークルがあると思います。こういう方の歌、音楽、踊りであるとか、若い人はダンス等、そういう日頃の練習の成果を発表できるようなステージ、これは凄いお金をかけて大規模なステージをつくるのではなく、少し高さがあって、地べたに座って観たりしても良いようなステージで、皆が集まって「あそこではいつも何か賑やかなことをやっている」とか「地元の人々がここに行くとき多くの人が集まっていて賑わいがある」とか、そんなステージがあると尚更施設との連関性も出てくると思います。それから4の「道の駅登録」に関しては、是非目指していくべきだと思います。やはり対外的な知名度、発信力というのは格段に違います。横芝光町に行ったことがない人も道の駅ができたということで「じゃあ行ってみよう」というように足を運ぶ人が出てくることも期待されます。地域で愛される施設にするというのはもちろんですが、やはり町外からも集客できるような施設にするということ、お金をかけて皆様の知恵を結集してつくる訳ですから、地元で愛されるのはもちろん、地元以外の人にも呼べるそんな施設にするということに関しては、道の駅登録というのは有効と考えます。道の駅のシンボルマークを皆様ご存知かと思いますが、あれが色々な地図に載りますし、道の駅のマップというものもありますし、今では道の駅ツアーもやっている団体もあるくらいですから、そういうところにも影響が出てくると思います。ただ、メリットだけを追い求めるのではなく、デメリットとして道の駅にした場合には24時間トイレ等を開放するということが求められますので、当然向かいにある横芝中学校を含む地元の理解というものがが必要です。理解を得た上で道の駅にチャレンジしていくということは良いと考えております。5番の「通学路の安全対策」について、安全対策は絶対不可欠ですし、それに勝る、そしてこれより優先するものはないと考えております。意識向上も大きな課題だと思います。今までなかったところに何かをつくと当然交通量が増えて危なくなるというデメリットは出てしまいます。私個人としてはそれを上回るメリットを提示して、またそ

れを拡げていくことでデメリットを上回るメリットを皆様に享受していくという視点の転換が重要と考えます。例えば、横芝中学校の生徒が一番デメリットの負担を受けることとなりますが、逆に中学校のイベントや行事を産直交流施設と連携して取り組むとか、社会や家庭科の授業の一環で生徒自らが加工施設で地域資源を使い商品開発に大人と一緒に取り組むとか、模擬店の運営を中学生と一緒にやるとか、「学校付近に良い施設があるからこそできる教育」という部分もこの施設の可能性ではないかと思えます。安全性の確保は絶対的に必要ですが、デメリットばかりに目を向けるのではなく、生まれるメリットを保護者の方や地域の方とうまく情報共有、合意形成をしながら進めて、もちろんこれには丁寧な説明というものが欠かせませんが、それを皆様と一緒にやっていくということが重要だと思います。最後になりますが、委員長からもあった通り、この施設が子ども達にとって心のよりどころであったり、うちの町にはこんな良い施設があるということで町外の友達に自慢できるような施設にすることが横芝光町の将来につながっていき、交流や賑わいの拠点になっていくと考えております。

3. 報告

事務局：

ありがとうございました。議事に入る前に事務局より報告がございます。検討中の施設が横芝中学校と隣接することから、教育委員会から要望があり産直交流施設基本計画（案）の内容について、昨年秋に学校説明会を行いました。9月に横芝中学校、11月に横芝地区の全小学校において各学校の校長先生をはじめ先生方に説明をさせていただきました。学校からの意見としては、施設の設置に伴い交通量が増えるので生徒の登下校の安全性の確保についてなど、学校周辺の道路整備についての意見が多くありました。そのような意見要望について、第4回と5回の検討委員会で報告させていただきましたが、特に横芝中学校については第4回の検討委員会で交通計画（案）について検討する前の説明会でしたので、第4回と第5回の検討委員会でまとめた交通計画（案）について、再度今月の12日に横芝中学校を会場として学校説明会を行いました。横芝地区の各小学校と中学校の先生を始め、今回はPTA役員の方々にも説明をさせていただきました。別添資料に報告事項として学校説明会の会議録を添付しておりますのでご覧いただければと思います。各小学校の先生や保護者の皆様からの意見としては、「現交通計画（案）ではまだ安全性について不安視する」意見、「その他大勢が集まるような施設が中学校の付近にあっては中学生

にとってはデメリットとしか感じられない」ですとか、「計画自体に賛同ができない」などの意見を頂きました。今後事務局としては引き続き学校関係者と継続的に協議を行っていく予定です。それでは議事に入りたいと思います。

4. 議事

(1) 横芝光町産直交流施設基本計画（案）

事務局による資料説明

(2) 意見交換

委員長：

ただ今、執行部から計画（案）が示されました。この資料についても事前に正・副委員長及び執行部と話し合いを行い、当初の予定はこの基本構想のような立派な冊子を予定していましたが、分かり易いものを作成しようと言うことで、こちらの「施設をつくる目的は」、「なぜ道の駅を目指すのか」、「どこに施設をつくるのか」というようなQ&A方式で基本計画（案）を提案いたしました。資料の最後にある「今後の予定」については、参考資料3でA4、1枚の紙がありますが、今後の設立準備委員会の組織図である準備室を設け、そこで委員長である町長、そしてアドバイザー、建設部、運営監理部、販売促進部、飲食レストラン部、体験交流部という各部を設け実施計画を立てていくこととなります。「町で全て設計して完成しましたよ。では、これから運営する方入ってください」という方式では失敗している例も多くあります。分棟方式ということなので、各部を設けまして、その中で設計や運営をしていくことになると思います。現在、千葉県内で道の駅を進めているのは勝浦市、こちらはPFI方式です。そして今年オープンします木更津の道の駅、こちらはデザインビルド方式で、設計からすべて民間です。資料としては公設民営というこれから進む過程で、こういった形が良いかということで自治体直営方式であるとか、指定管理者制度、PFI方式等を示してございます。これが基本の原案です。そしてこれから意見交換となりますが、前回までは1人ずつ最後にまとめてお話を聞きましたが、今回は最終の検討委員会ということで意見のある方は挙手の上お願いします。町長がお見えになりました。最後に挨拶をいただきたいと思います。

委員：

財源に関する31ページ。財源はどうするのかということで、約5億円の概算。この補助金を50%とした根拠と個人的にはNAA、つまり成田

空港会社からの補助を利用したいと思いますが、この合併特例債※印というのも含めて説明願いたい。

事務局：

財源の根拠は農水省の例で申し上げております。農水省の補助事業は50%の適用です。今回の5億円の整備費の内訳ですが、本来、補助対象外経費である厨房関係ですとか細々としたものは今回この中には積算されていません。本体工事等で5億円として、恐らく全て農水省の補助で対応できると考えています。特例債については、これから企画財政課と協議をさせていただき、対応できるのかどうか検討させていただきます。

委員：

それでは合併特例債の話が出ましたので、企画財政課長である私から説明をさせていただきます。まず合併特例債については該当になりません。新町建設計画に位置付けた事業であって、将来の街づくり、一体感の醸成に伴う事業であれば可能ですが、県の市町村課に確認したところ、収益施設を伴う事業費に充てることは起債事業ではないということではっきりとした見解が述べられております。これについては非該当であり、特例債は充てられないということで認識をしていただければと思います。そしてもう1点。空港関連ですが、現在、機能強化ということで色々と地区の準備説明会等を行っている中で関連会社とは当然このような計画があるというお話はさせていただいています。これは確約できるお話ではありませんが、そういうアプローチについては今後計画が決まった段階でしていくと考えております。

委員：

非常に分かりやすい資料ということで拝見させていただいております。私は第1回の委員会時に旧町時代からある違う場所での計画の話もあり、将来的に2つのこのような施設はどうかという危惧を持っていました。しかし、この産直交流施設検討委員会の方向付けがなされたということであれば、財政的に非常に厳しい状況ではありますが、そういった面では何とか捻出して進めていきますというお話を第1回目委員会の時に申し上げました。計画についてはコンパクトにまとまった非常に良い計画だと思います。しかしながら、事前に配付いただいた報告事項の資料の中で、横芝中学校で行った説明会についての見解が非常に厳しいと感じております。先ほどアドバイザーからデメリットを上回るメリットという話があり

ましたが、この報告事項の資料を見る限りではメリット以上にデメリット一辺倒な意見が多いと感じます。色々な意見の中で、本当にこれをやっていくべきなのかという意見もありますし、またアンケートを行い進めていってはどうかという意見もある中で、これは行政に携わる者としては無視してはいけないものだと心配もしております。いずれにしましても、この検討委員会の中でそういったご意見も踏まえた上で方向性を見出していただければと考えております。財源の話の中で特例債の関係はお話した通りです。それと補助金ですが、農水省の補助金の中で50%を獲得していくということで、そういうメニューをどんどん見つけていただきたいということが1点。そして、道の駅の補助金の話も建ててから道の駅を登録するとなると当然補助金というのは該当にならないことだと認識しています。これは建てる前に道の駅登録ありきでこの事業計画を進めていった場合に、補助割合と申しますか、当初から道の駅に事業展開した時には駐車場あるいはトイレについては地元負担が一切無いと、そういうお話で道の駅はスタートとしたという認識を持っています。これについてはアドバイザーが道の駅建設に詳しいとのことですので、お答えをいただければと思います。

アドバイザー：

道の駅に関する補助は農林水産省の補助金が主になります。その考え方については、農水省は「この事業に対し、この金額が出せる」ということをあまり明確にしておらず、その都度本省の方に相談しながら、こういう部分は該当して、こういう部分は自分達で建てて収益でやっていきなさいとか、他の官庁の補助事業を使えるといった話になっているので、この合計について幾ら出すかというのは難しいと思います。むしろ農水省の考え方としては、道の駅として認めて登録しようという形です。PRとして使って下さいとか、先ほど言ったようにマップに載せるとか、そういうところでのメリットを大きく出しているのです。あまり道の駅にすることでお金を引っ張るという考え方よりは、農水省の元々持っている交流拠点の整備の補助金などを活用していくというのが基本的なスタンスになるかと思っています。

委員長：

よろしいでしょうか。今回皆様方のいただいた意見を見ますと、道の駅登録を当初から目指した方が良いという意見が多くありました。道の駅となれば、地図登録であるとか、大きな視野で様々なメリットがあります。道の駅登録をしますと、色々な案内、道の駅掲載があり、関東版、千葉県

版など色々なものがあります。こういったメリットがある中で先々週ですが、山武市、芝山町、多古町は道の駅である交流拠点を持っていることから、道の駅で連携しながら町興しをするとのことでした。横芝光町は拠点が無いのだと痛感させられました。町長にこの基本計画（案）を答申します。パブリックコメントが終わりましたら基本計画となります。その後は設立準備委員会を設け、準備部署等設置をしながら、改めて詳細を検討していくということになります。今回はあくまでも詳細を検討するのではなく、道の駅を視野に入れた中で基本計画を策定します。このようなことを踏まえて皆様のご意見を伺いたいと思います。

委員：

私がマイクを持つとまた是か非か言うのではないかと思いますけど、冒頭で説明がありました「匝りの里」について委員長にお伺いしたい。実際、委員長は「匝りの里」も設立で色々携わってきたと思います。「匝りの里」もこういう委員会を開催してできたのではないかと思います。将来的にはどうなるかまだ分かりませんが、あの状況を踏まえて今回のこの町産直交流施設がポジティブに成功できるという根拠を教えてください。

委員長：

「匝りの里」はこのような検討委員会を設けていません。あそこはNPO法人で市長の公約で建設しました。その中で当初予定されたのは20㎡の産直施設だけです。道の駅ではなく、観光の拠点で観光案内所、観光アテンダントを設けて運営しています。従いまして商工会が中心で、松尾にしても、匝瑳にしても、商工会の75歳程度の方々がその中で経営しています。「匝りの里」については私も1ヶ月間携わり、オープン後に協力を終了しましたが、オープン当初は100万円程度毎日売れておりました。現在の売上状況はどのくらい分かりませんが、リーダーシップを発揮する人物がいないことからかなり落ち込んでいると聞きます。「まちづくりは人づくり」これが私の考える原点です。今回はこのような委員会を開催し、委員皆様からそれぞれ良い意見を伺いながら検討しています。そのようなことから「魅力ある拠点施設にできるであろう」という自信を持っております。

委員：

ありがとうございました。施設の計画や目的、そして、この絵を見た時

におそらく住民の殆どの人は「こんな施設ができるのか」「できたら良いな」と必ず思います。けれども、やはり一番大事なのはお金がどのくらい掛るのかです。先ほどの簡単な試算ですが、それを見て住民はどう思うか。僕たちも直売所をやっていますが、はっきり言って直売所で7,500万円売り上げるのは凄いことで、ましてやレストランでもどんな美味しいものを食べさせて7,800万円を年間で売り上げるのか。自分は本当にそれでやっていけるのかということが一番心配するところです。実際にこの坂田池が綺麗になるのは非常に嬉しいし良いと思います。しかし、お金も一番大事だと思います。今後どうなるか分かりませんが、慎重に検討すべきではないかと思います。

委員：

やはり一番気になるのは横芝中学校との隣接問題で、報告資料を見ると先生方のご意見は当たり前だと思います。国道からのバイパス道路も開通するのが難しいという噂も聞いています。それと駐車場出入口が中学校正門と隣接している状況となっていますが、反対側から中学生が登下校できる入り口や道路はできないのでしょうか。反対側と言いますか、上町の三差路のところをどうにかして中学生が反対側から入れるような道路はできないのでしょうか。それと余談ですが、31年度末というと私の孫が入学する頃になりますので祖母としては心配です。個人的なことで申し訳ありませんが、ちょっとした事故でも起きたら、もうこの施設はだめだと思います。道路の進展状況とか、現在バイパス交差点改良工事も見受けられますので、分かる範囲で結構です。教えていただきたい。

委員長：

今後予定される施設周辺の道路環境ですね。

委員：

県道の信号交差点とバイパス関係の計画を見させていただいていたのと、今お話がありました中学校の説明会でのご意見がありましたので、バイパスの問題ですとか、県道T字交差点で生徒が渋滞しているという部分もあって、山武土木事務所にもその確認をしました。平成31年度末にオープンという話で行くとすれば、まず、バイパスは間に合いません。その辺を踏まえて、前に委員からも話のあった「中に入るものが重要だ」という部分を考えれば、もっとじっくりと時間をかけて、施設に入る人達の意見を聞くという期間をとっても良いのではないかと思います。それともう1

点。西側の方から生徒を誘導して入れないかというご意見ですが、私が聞いた話では中学校の生徒は東側から入るのが約7割、西側から来るのが約3割とのこと。西から来るのは金刀比羅神社の前の国道から信号を渡って北へ上がり、坂田池公園の西端を通ってくる。その生徒達がそちらからわざわざ正門まで来ないで、基本的には舗装されていないのですが中学校の内側に道路がありまして、そこを通って北側の門から入ってくるというのは可能だと思います。ただ、概ね6割から7割の生徒達が東側から来ていますので、その生徒達を東側から誘導するというのが今の道路状況では難しいと思います。ですから西側については坂田池公園の野球場裏の駐車場から正門まで道路の歩道があれば、歩道内というのは可能だと思います。

委員長：

この計画の中でも中学校生徒の登校時間と施設のオープン時間の朝はバッティングしないと思います。下校時がある程度バッティングするのではないかということで、その点も配慮された交通計画（案）ということで作成はされています。よろしいでしょうか。

委員：

今、委員と委員からもお話がありましたように、中学校の学校説明会での意見を見る中で皆様が心配されていることが沢山あるのだなと感じています。今日の説明の中でも執行部から防犯に関する話が全然出てきていませんが、この先、指導上色々な問題があろうかと思います。こういう意見が出たことを完全に解消して良くご理解をいただいた上で、進めていかなければ大変なことが起きると思います。とにかく、この施設ができて生徒の素行が悪くなり、「素行が悪いから学校が変わってください」と言っても学校がすぐに変わるなんてできませんから、これはしっかりクリアをしていただきたい。そして今、委員から話がありましたようにバイパス開通もまだまだ大変なようです。これもいずれは出来てもらわなければならないことですが、そういうことも加味しながらこれからスケジュールを組んでいったら良いのではと思います。

委員長：

ありがとうございます。この基本計画（案）の答申に添えて、今後、生徒の交通安全、環境問題、そして防犯の配慮を盛り込み、執行部として設立準備委員会で検討していただくということでよろしいでしょうか。

委員：

横芝下総線から横芝中学校の通学路の間で歩道がとても狭い部分があるという話もありました。産業振興課から相談を受けまして、その部分を拡張しなければならないだろうと考えているのですが、実際生徒達の安全を確保しながら歩道を拡幅するだけでも1年ないし2年はかかります。そして横芝下総線バイパスは31年度末までの開通は厳しいという状況にあります。この計画の中で31年度末オープンという期限が入っているのですが、委員から「施設に入るものが非常に重要で、中に入る人達の意見を聞いて意見集約した中で進めたら」という話もありました。参考資料3にある準備委員会の組織の部分で時間を取って、それと併せて中学校の中ではアンケートを希望する意見など色々出ていますので、中学校のPTAや先生方も納得できるようなものを醸成しながら、皆に喜んでいただかなければならない施設だと思います。その辺をしっかりと検討していただいて、ここにあって31年度末オープンというのを入れるのはどうかと心配はしています。

委員長：

この計画は、これから準備委員会の方で検討していくということで答申する形で良いかと思えます。更なるこれからの検討事項は実行部隊の方で考えるというような形で、その中で遅れる場合もあるかもしれませんが、「今回の基本計画（案）の答申はこれでいく」ということでいかがでしょうか。

委員：

基本計画（案）の説明については分かりました。今お話にありました今後の準備委員会を立ち上げていくという中で、ここに5つの分野に分けて2つ目にありますが、運営監理部の中に産業振興課と企画財政課が入ります。その中に教育委員会や学校関係の代表者を入れて考えてみてはいかがでしょうかと思いました。私からの要望としてよろしく願いいたします。

委員長：

今言われました参考資料3の中にある建設準備委員会の組織図で、ここに教育課を入れるというご要望ですね。これは答申事項には入っていませんので別添ということになります。

事務局：

今のご質問ですけれども、まず教育委員会の方でこの計画に携わっていただけるのかどうかというのは、学校説明会等の中で非常に厳しいご意見がございます。すべての方が共通の厳しいご意見を持っているとは思いません。中にはこういう施設があっても良いという方がいるかもしれませんが、説明会の中ではほとんどが厳しいご意見でありました。今現在の状況で教育委員会の方がこの計画にタッチしてくれるか微妙なところです。これからも説明会は続けていきますが、その中で前回の説明会でもお互いに共通認識が深まっていく、あるいは解決案が出てくるのではないかとということで、これからも引き続き説明会を継続していきます。その中でこの運営管理部に入っても良いという方がいらっしゃれば、それは拒絶するものではないので一緒にやっていきたいと考えています。

委員長：

これからパブリックコメントを行うということになっていますから、その辺りはまた意見が出てくると思います。

委員：

資料の表現の問題で2点程よろしいですか。まず4ページ、「なぜ道の駅を目指すのか」の部分。先ほど分かり易く作ったと言いましたが分かり難いです。「道の駅」という言葉がこの間で1回も出てこない。タイトルを道の駅としないとあり得ない質問ですので工夫が必要かと思えます。それと32ページ、「事業化の見込みはどうか」でその回答が書いていない。見込みがあるのかどうかの回答が必要ではないでしょうか。

委員長：

執行部、4ページの「なぜ道の駅を目指すのか」と32ページ「事業化の見込みはどうか」という点をよろしくお願いします。

事務局：

ご指摘の部分、唐突に「道の駅」が出てきているということと、それから「事業化の回収見込みが有るのか無いのか」については、あるというふうには書いてありますが、それには相当時間がかかるということで、この辺をもう1度詰めて訂正してまいります。よろしくお願いします。

委員長：

他にご意見はいかがですか。なければ、一部修正もありましたが、これを基本計画（案）として答申し、そしてパブリックコメントを行うということでよろしいでしょうか。よろしいという方は挙手をお願いしますか。全員賛成でよろしいですね。横芝光町産直交流施設基本計画（案）はこの資料に一部修正を加えてパブリックコメントを行うこととすることで執行部にお返ししたいと思います。その他何かございますか。よろしいですか。私の委員長としての職務もここで終わりとなります。今まで私と副委員長で6回の委員会を進めてきましたが、これをもって私どもの職を終了させていただきます。ご協力をいただき誠にありがとうございました。これを以て基本計画（案）の答申といたします。

事務局：

委員長ありがとうございました。次第の5、「その他」に入ります。パブリックコメント実施について担当から説明をさせていただきます。

事務局：

ご検討ありがとうございました。今後の予定としては、修正をいくつか加えまして2月9日から3月10日の30日間、住民の意見を伺うパブリックコメントを実施させていただきます。この内容を住民の皆様に見ていただきまして、広くご意見等をいただく仕組みになっております。それをもって基本計画とさせていただきますので、終了次第、皆様に報告をさせていただきます。誠にありがとうございました。

委員：

どういう形で住民に知らしめるのでしょうか。

事務局：

町のホームページ上や産業振興課の窓口でも紙面で閲覧ができ、意見をいただくこととなっております。2月広報配付に併せ周知回覧を行います。それでは本日、佐藤町長がお見えになっておりますので皆様にごあいさつ申し上げます。

町長：

皆様こんにちは。6回の委員会開催という長い期間の中で活発なご意見を重ね、積み上げていただきました。この案を今後、パブリックコメント

を行い基本計画として頂くこととなります。誠にありがとうございました。ご案内のとおり町といたしましては、「横芝光町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を積極的に取り組んでおり、先だって移住、定住及び人口流出の抑制問題に関しての促進協議会を設立しているところでございます。また、皆様もご承知の通り、成田空港の第3滑走路建設における容量拡大の問題の中で、非常に大きな波が寄せてきている状況にあります。更に国でも進めていますインバウンド、訪日外国人旅行者の数が昨年は何と2400万人であり、6年前の約3倍になります。そのような状況の中で、これから2020年のオリンピック・パラリンピック東京開催の年には4000万人を越す勢いのもと考えられております。そうした中で、当町横芝光町もこの素晴らしい自然のロケーションと、また良質の豊富な産物を外国人の皆様ですとか国内外を問わず、「横芝光町を宣伝していく」、「一生懸命これを盛り上げていく」、そういった部分も含めてある意味、千載一遇の大きなチャンスとっておりますし、そのポテンシャルは非常に大きいものがあると誇っております。そういうような部分で国際交流拠点といった考え方もできるのではないかとっておりますし、そうした部分でやはり拠点整備、これから日本全体がそうなのですが、観光事業にしっかりGDPの割合を増やしていこうという国の施策、この潮流にしっかりと乗っていくというのも我々行政として必要だと感じております。その様な部分でこのような「拠点施設」というのが必要になってくるのではないかとっております。この基本計画（案）を公開して町民の皆様からい色々ご意見をいただきますが、先程以来お話が出ております横芝中学校生徒の交通安全や防犯上の問題など、そうした問題もできる限りクリアをしていく努力をこれからも進めていかなければならないし、それを具現化することによって、横芝光町の素晴らしい未来が見えてくるのではないかとっておりますので、今後も皆様方には更なるご協力そしてご理解、ご進言を賜りますことをお願いしたいと存じます。本当に長い期間、色々ありがとうございました。

事務局：

ありがとうございました。それでは委員の皆様及びアドバイザーにおかれましては、昨年5月から長期に渡り基本計画検討委員会にご出席いただき、貴重なご意見等をありがとうございました。これをもちまして、横芝光町産直交流施設基本計画検討委員会を終了とさせていただきます。

閉会 午後3時15分

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 基本計画（案） 17.1.27案
- ・ 基本計画（案）概要版 17.1.27案
- ・ 第5回検討委員会_意見と対応（参考-1）
- ・ 産直交流施設-質疑票 意見概要整理（参考-2）
- ・ 横芝光町産直交流施設建設への歩み（資料-3）
- ・ 基本計画策定スケジュール（参考-4）
- ・ 報告事項【学校説明会会議録】